



<Vol. 116 の記事>

紹介 設立趣意書を振り返る  
お知らせ 20周年記念シンポジウム ぜひ参加を！

1991年9月29日

● クラブの原点 ・ 「設立趣意書」

20年前の1991年9月29日、浦和スポーツクラブの設立総会が開催された日です。

設立にむけて作成された趣意書を紹介します。

\*\*\* 設立趣意書 \*\*\*

この度、私たちは伝統ある浦和のサッカーを中心したヨーロッパスタイルの”浦和スポーツクラブ”を発足させることになりました。

近年の我が国におけるスポーツの隆盛には、目を見張るものがあります。スポーツ少年団が生涯スポーツの第一歩であるとして産声をあげてから二十数年を経た現在、質量共に大きく変化しながらも、一方で種々の問題点が指摘されております。

過酷な練習の為に甲子園や国立競技場で燃え尽きてしまい、成人での競技力向上に結び付かない”燃え尽き症候群”、練習のし過ぎによって起こるスポーツ障害の典型である”過度使用症候群”、受験とレギュラーポジションの競争の狭間に揺れて、スポーツからさえもドロップアウトせざるを得ない現状等々の問題が、子ども達の心身を蝕みつつあるのは、現代のスポーツの在り方に対する重大な警鐘であります。

一方で、これまでの”観るスポーツ”から”するスポーツ”へと質的な転換を図りながら、これ迄ほとんど無縁であった中高年者や女性をも包含したスポーツ人口の急速な増大は、これまでの学校体育一辺倒だった我が国のスポーツ施策に、社会スポーツの育成という流れを促しつつあります。

しかし、現状では、中学生、高校生、大学生の多くは、それぞれの単位年度での勝利至上主義へと走りがち傾向があり、混迷の度を深めているかに見えます。

その結果、本来楽しかるべきスポーツがしばしば苦痛に満ちたものとなり、子ども達にスポーツ障害を引き起こしてきています。

また、競争能力向上という面から考えても、中学・高校・大学と数年枚の断絶がある現状では、成人に達してからの世界に通じる選手育成には程遠いと言わざるを得ません。

少年から成人までの一貫指導が最重要課題だと言われる所以であります。

私たちは、かかる現状を憂い、浦和市（当時）を主対象地域としてスポーツ医・科学、体育学の英知を結集し、スポーツ障害の防止を図りつつ心身の発達に応じ、少年から中学・高校・大学・成人に至るまでの一貫指導を基本にして、且つ中高年者にまで連なる地域密着型の、いわゆるヨーロッパスタイルの”浦和スポーツクラブ”をここに発足させることになりました。（発起人：倉持守三郎、松本暁司、荒川岩雄、池田隆、桜井勝利、三戸一嘉、塩野潔、戸辺晴彦、丸山晃）



相川宗一初代会長の挨拶



会場は県民健康センター

● 20年経って・・・

当時、クラブ設立の大きな動機となった国内のスポーツ環境への憂いは、20年たったいま、どうなっているでしょう。

クラブ設立と前後して、Jクラブが全国各地で発足し、ユース世代の育成環境はじょじょに整いつつありますが、一部の選ばれた選手のみがこの世界に生き残れるだけです。また、これはサッカーだけの話です。

さらに、我が国は世界でもまれにみる少子高齢社会をむかえ、子どもの体力の低下、中高齢者の生活習慣病等による健康不安など、新たな課題を抱えるようになってきました。

また、企業経営環境の悪化にともなう廃部、中学校部活動では顧問や生徒の不足による廃部なども、ますます増えてきている状況にあります。

一方、生涯スポーツはますます盛んとなり、公共スポーツ施設は慢性的に不足しており、さいたま市でも、体育館やサッカー場は、何倍もの抽選倍率が恒常的になってしまっています。スポーツをしたくてもできない市民も少なくないようです。

この間、私たちは、少しずつこのような課題に対応した活動を展開してきましたが、その効果はどうだったでしょうか。

これからも、子どもから高齢者までそれぞれに応じたスポーツができる、100年続くクラブを目指して、取り組んでいきたいと思っております。



2010年度も、浦和スポーツクラブでは、総合型地域スポーツクラブ活動助成を受けて活動しています。

浦和スポーツクラブ設立 20 周年記念事業！！

## スポーツシンポジウム「スポーツの未来図」

～スポーツ立国と地域スポーツの将来像～

基調講演 スポーツライター **二宮清純氏** 「スポーツの未来」

講演 平成国際大学特任教授 佐伯年詩雄氏「海外の都市とスポーツ」

パネルディスカッション 「さいたまのスポーツ未来図」

さいたま市長 清水勇人氏、二宮氏、佐伯氏、戸苅晴彦浦和スポーツクラブ理事長

日時 10月3日（日）13時半～17時 場所 埼玉県県民健康センター

入場 無料 定員 400名

日本のスポーツ政策の指針を示すスポーツ立国戦略を、文部科学省が公表し、この中で地域スポーツクラブの重要性が高まっていることが示されています。では、さいたま市の地域スポーツの現状はどうなっており、今後、どのような方向に向かうのでしょうか。

私たちが、そして子ども達がいつまでも楽しくスポーツを続けることができる環境をつくっていくために、多くの会員や関係者の方の参加をお願いいたします。

### 20周年記念祝賀会のご案内

日時 10月3日（日）18時～20時頃

場所 さいたま共済会館（県庁そば）

会費 3,000円

シンポジウム終了後、会場を移して、祝賀会を開催します。

クラブの設立や運営にご助力いただいた顧問や相談役の皆様、市内外のスポーツ関係者の皆様もお招きしています。

各プログラムのお仲間を誘って、ぜひご参加ください。クラブ内の交流を暖めましょう。

### 貯筋運動モデル事業に取り組みます

貯筋運動は、体力に不安のある方でも自分の体重を利用して安全に実施することができるエクササイズとして、注目されている運動です。

（財）健康・体力づくり事業財団が、この貯筋運動の普及と効果の検証を目的として、貯筋運動ステーションモデル事業を全国5ヶ所で実施することになり、そのうちの1ヶ所として、浦和スポーツクラブが協力先に選定され、9月下旬～12月下旬の3カ月間にわたり、毎週月・木に駒場体育館でモデル教室事業を実施することとなりました。

体力や足腰に不安を感じ始めた方、お友達と一緒に軽い運動から体を動かすことを始めたい方など、これから健康・体力づくりを始めたい方に適したプログラムです。

今回は、すでに定員いっぱいですが、関心のある方はぜひご見学等にお越しください。自治会で実施する介護予防の事業などとして取り入れることも可能です。

クラブでご相談をお受けしますので、お気軽にお問い合わせください。



#### 第4回

キッズテニス大会 in SAITAMA  
大会&教室参加者募集！

日時 10月16日（土）

場所 さいたま市浦和駒場体育館

対象 大会 小学校1～6年生

教室 年中～小3

申し込み・お問い合わせ

クラブ事務局まで

### 第18回 浦スポ塾の報告

「スポーツにおけるリスクマネジメント」

日時 9月11日（土）17時～19時

場所 駒場体育館 会議室

講師 古里健二氏（弁護士）

クラブの指導者やさいたま市の体育指導委員の方など、約20名の参加のもと、最新の判例を紹介いただきながら、リスクマネジメントについてお話いただきました。

会場からは、以前バックチャージを受けて大けがを負った生涯コース会員の話しが出され、クラブとしても数年前までは、リスクマネジメントやその後の対応などへの考え方が十分ではなかったことなどの指摘がありました。

今後、古里さんのお力添えなどをいただきながら、皆さんがより安心して参加できるクラブにしていきたいと思えます。